

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6年 3月 29日

公表: 令和 6年 3月 29日

事業所名 君の未来 東宝珠花教室

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				
	2	職員の配置数は適切である	6	1			利用者の増加に伴い、適切なタイミングで増員できるように随時求人活動を行なっている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2	2	・施設の構造上、難しい面もあるが市販のものを使い段差の解消などに努めている	今野は目的別にエリアを区切る工夫をすることや物理的にエリアを分ける仕切りになるものの設置を検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	1		目標設定と振り返りを繰り返す時間が少なく、意識があっても十分には行っていない。人員の増加や業務の効率化を進めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		1		本年度初めて実施し、利用者のご意見を真摯に受け止めてサービスの向上に努める
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	2		第三者による外部評価については今後実施を検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	1	・定期的な社内研修を行い向上を図っている。	今後は専門的な技術・知識を習得できるような研修を増やしていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		・面談や社内でのミーティングを行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	1	・今後特性に応じたアセスメントツールを検討している。	各種心理検査の実施や、ボーテジ協会のグループ指導カリキュラムを取り入れ、具体的な個別の支援内容作成につながるようなアセスメントツールを構築していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6				新しいプログラム計画書式を作成し、業務の効率化とともに支援内容の向上に努める
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1			新しいプログラム計画書式を作成し、業務の効率化とともに支援内容の向上に努める
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3			長期休暇について、職員体制が不足しがちであるため臨時での職員体制強化を検討する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2			集団活動が中心であり、個別活動については実施が少ないが、ケースによっては個別活動を取り入れて行くことを検討する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3			職務環境的な部分で出来ないことも多いため、人員体制の見直しや業務の効率化を図っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	3			今後、新しいガイドラインについても適宜確認し、現場にあった活動に活かしていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4		・現在医療的ケアの必要な子がいない	現在医療的ケアの必要な利用者は在籍していないが、もしいる場合のことも検討しておく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	1		・今後は情報共有だけでなく、共通した支援に対しての相互理解が進むように、繋がりを深めて行くよう努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	2	2	該当する児童がいない	学校は生徒数が多く多忙で、なかなか一人ひとりの情報等を共有することが難しいが、ご家族とも連携を図りながら適宜連絡を取っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	2		保健センターや地域行政からの助言や情報提供、情報共有が多くなっている。今後とも他事業所、関係機関との繋がりを強化していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		4		アートワークショップや季節のイベントなど、地域との交流や同年代の子供達との交流ができるような催事を企画していきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3	2		地域でのイベントやグループ活動の情報を収集し、少しずつ繋がりを持つことから始める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	1		ペアレントトレーニング等の家族支援は重要であると感じながらも、なかなか支援が難しいと感じている。行政や関連期間と連携をとりながら進め、ペアレントトレーニング等の研修も検討する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	4		現在父母の会が無いため活動を支援する場面はなかったが、今後父母の会が結成され必要な支援があれば実施していく。また、保護者会や保護者同士の連携が進むように情報提供や繋がりをもつきっかけを創出していくか検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1			
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	2		日々の業務に追われ地域との交流はまだ多くは行われていない。今後は計画的な年間行事を作成し、地域との交流を図って行きたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	1	保護者への情報等の発信が不十分であったため、今後はどのような訓練を行っているかなど定期的に情報共有し、災害時に協力して行動できるように備えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			